

バイブルスタディー Pastor JD Farag

2018.01.28.

エペソ人への手紙 1:15-23 「なぜ祈るのか」

.....

それでは、みことばに入りましょう。

主が、今日、私たちのために何を用意されているか楽しみですね。

今日のタイトルは簡潔に「なぜ祈るのか」にしました。

エペソ 1 章 15 節-23 節。パウロは聖霊によってこのように言っています。

15 こういうわけで私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛を聞いているので、

16 祈るときには、あなたがたのことを思い、絶えず感謝しています。

17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、

19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることが出来ますように。

20 この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、

21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけではなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。

22 また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。

23 教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。

祈りましょう。

愛する天のお父様。今、私たちはあなたの恵み、憐み、愛、親切に圧倒されています。

今日、あなたがここにいる一人ひとりの心をご存知であることを、ひしひしと感じます。

あなたは、ここにいる全員の必要をご存知です。

ですからこの時に、みことばの中でそれらの必要に応え、私たちのいのちに語りかけて下さい。

使徒パウロがエペソの人たちのために祈ったように、主よ、この時間、私たちの目を開き、悟りを与えて下さい。

イエス様の御名によってお祈りします。アーメン

1 章の終わりで、使徒パウロはエペソの人たちに主について語り、次に、エペソの人たちについて主に語っています。

これは、私たちが覚えておくべきことだと思います。

私たちには両方必要です。

人々に主のことを語る必要もあるし、逆に、主に人々のことを語る必要もあるのです。
興味深いことに1章後半では、彼が祈った“時”と“内容”があまり一致していません。
注目して下さい。

パウロはエペソの人たちが“良くやっている”時に祈りました。
つまり彼らの、主に対する信仰と聖徒に対する愛を聞いた時に、彼らのことを祈り、感謝するのを止めなかったのです。
私はなぜこのように始め、このことを指摘するのでしょうか。
私たちは、誰かの状況が良くないと聞いた時だけ祈る、という傾向があると思いませんか？
それはすなわち、彼らがまた良くやり始めると祈るのを止めてしまう、ということでしょう。
だって、彼らはもう、“良くやっている”のだから。

パウロは「決して止めなかった」と言っています。
また、書簡の中で「絶え間なく祈っている」と書いています。
そして私たちに「絶え間なく祈りなさい」と強く勧めているのです。
言い換えるなら、諦めずに祈り続けるという態度、祈りの心を持つということです。
パウロは明らかに祈りの人だということ、それがここでははっきりと分かりますね。
私たちが誰かのために祈ると神様はその祈りを聞いて応え、その人たちは良くなっていくのですが、そうなるのを祈りを止めてしまうというこの傾向は危険です。
サタンは決して止めないから。それが問題。
もっと踏み込んで言うなら、サタンは私たちが祈りを止めるのをしつこく待っています。
私たちの気が緩んでいると攻撃することができるからです。
私は非常に親しい人のために、熱心に断食までして祈ったことがあります。
神様は私の叫びを聞いて下さり、力強い御手を動かして、いつものように真実に、神にしかできない方法で事を行って下さいました。
それで彼らの状況が良くなってきたので、前ほど熱心には祈らなくなっていたんです。
ところがどっこい、敵は私が祈りを止めるのを待っていて攻撃してきたので、私はまた祈るようになりました。
祈りとは長さではなく力強さなのです。
ところでこれは、皆さんの牧師の説教には当てはまりませんからね。
ちょっと言っておきたかったですよ。(笑)

パウロは、彼らが良くやっている時に祈ったのですが、エペソ 1 章 17 節
17 「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」
彼らの来月の家賃を満たして下さるようにとか、経済的供給のため、また肉体的癒しのためには祈っていないことに気づいて下さい。
「彼らが神をもっとよく知ることができるように」という祈り。
これが私には非常に興味深い。

それからエペソ 1 章 18 節-21 節

18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、
19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」

それだけではありませんよ！

パウロは神の偉大な力を説明しました。これは非常に重要です。

20 この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、（この部分はしっかり聞いて下さい。後でまた戻ってきます。）**天上でご自分の右の座に着かせて、**この力はキリストを甦らせただけではなく、キリストを御父の右の座に着かせ、“サタンの全ての力”の上に高く置きました。

パウロは、それら支配者たちの階級を詳細に述べてさえいます。

皆さんに理解して欲しいのですが、霊的領域には軍隊のように階級があつて、彼は詳しく書いています。

21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけではなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。

そのことについて考えてみて下さい。

さて、どんどん良くなっていきます。

22 また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。

23 教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。

この宣言。これが、パウロが祈った“時”であり、祈った“こと”です。

しかし興味をそそられるのは、パウロが“なぜこの祈りをしたのか”ということ。

この“なぜ祈るのか”について答えたいと思います。

私が言っているのは、「どっちにしろ神様がやって下さるのなら、なぜ祈るんだ？」ということではなく、祈る理由のことです。

私たちは祈るべきであると知っています。

イエス様は祈り方さえ教えて下さいました。

でも、もしかすると、私たちはその中にある宝石を見失っているのかもしれない。

その宝石とは“なぜか”です。

私たちに必要なこの“理由”について簡単に答えましょう。

なぜ祈るのかというと、それは、誰に祈っているのか、別の言い方をするなら、私たちが祈る方のゆえに祈るのです。

それが理由。それですよ。

“何を知っているかではなくて、誰を知っているかだ。” という言葉を聞いたことがありますよね。
「私はお偉いさんたちと知り合いでね。コネがあるんですよ。私の知り合いが誰だか知ってます？」
「私のパパが誰だか知ってる？」「私が知っている方を、あなたは知らないでしょう。」

何を知っているかではなく、誰を知っているか。

私はただ言葉を発すればいいだけ。それだけなんです、私が祈る時、天的静けさがあるのです。
衝撃的だったのは、皆さんもそのことを考えたら驚くと思いますが、私たちの祈りは、全能なる神の御座の前で香ばしい香りを放つほど、神様にとっては特別なものだという事です。

私が少年だった頃、私を熱烈に愛していた母が、そうです、私はマザコンでした。

母を責めることはできませんが、ともかく彼女は、「あなたの声を聞くのが大好きよ」と言っていました。
それで私が大きくなると、どの母親も得意とすることですが、電話をかけてきては私に罪悪感を与えるのです。

甲高いソプラノボイスで、「なんで電話をかけて来ないの？ あなたの声を聞きたいのよ！」

今でも母の声が聞こえてきますよ。

私の声を聞くことは、彼女にとって最高の喜びだったのですね。

皆さんの両親も、特に母親はいつも言って来るでしょう。「子供が生まれたら、あなたにも分かるわよ。」

若い時は「はいはい。まあまあ。」という感じですが、自分の子供が生まれると…

これ以上言うのは止めておきますが、そう、私は自分の子供たちの声を聞くのが大好きです。

彼らの声を聞くこと、そして彼らが私に何かを求めてくる時、肉の父親として本当に嬉しい。

誰に祈っているのか、そのお方が誰であるのかを私たちが本当に知っているなら、もっと祈ろうとするだけではなくて、もっと良い、大きい祈りをするのではないのでしょうか。

私たちは、全知全能で遍在される方に近づくことができます！

確信を持って、恵みの御座に大胆に行くことができます！

威張ってではなく大胆に。

「神様に何でも求めていいんだ！」という確信を持つことができる！

それが神様。天のお父様です。

それは、御子イエス・キリストのゆえに可能なのです。

では、どうすればいいのでしょうか。

今、この讚美歌が思いの中に来たのですが、皆さん、ご存知だと思います。

「いつくしみ深き」(讚美歌 312 番)

この素晴らしい讚美歌にはこのような歌詞がありますね。

***O what peace we often forfeit, O what needless pain we bear,
all because we do not carry everything to God in prayer.***

「こころの嘆きを 包まず述べて などかはおろさぬ 負える重荷を」

祈らなかったために人生で失ったものを思うと身震いします。

祈祷会で言ったのですが、もう一度言うべきでしょう。

皆さんが私に、「イエスとの 35 年間の歩みの中で、一つだけ後悔していることは何ですか？」と尋ねるなら、「人生をやり直すとしたら、私は絶対にもっと祈ります。もっと祈る。」

「もっと祈っていたら、神様は何を成すことができたのだろう？」

それが私の唯一の後悔です。

さて、アレクサンダー大王の興味深い話をします。

彼は全世界を征服したことで有名ですが、記録によると、国々を征服するために遠征する時、泣いていたそうです。

あまり知られていませんが、彼は自国民に対してとても情け深かった。

1 年に一日、“憐みの日”を制定して、無作為で選んだ国民を自分の元に呼び出し、「王に求めることは何でも与える」と言ったのですが、その多くは、食べ物やお金、服や薬などしか求めませんでした。

ところがある年、一人の農夫が、「友人全員を招待して大晩餐会をしたいです。そのための大きな宮殿も下さい。」

すると、みんなの驚きをよそに、アレクサンダー大王はその願いを叶えたのです。

家臣たちが「なぜ、あんなとんでもない、贅沢な願いを聞き入れたのですか？」と尋ねると、「多くの者たちは誰にでもできるようなことしか願わなかった。彼らが求めているものは、王でなくとも与えることができる。しかしあの男は、私が王であることを初めて感じさせてくれたのだ。

私以外には誰も、あのような願いを叶えることはできないから。」

私たちは自分に、自身に、正直に問う必要があります。

「私は何を祈っているのだろう？」

その答えは、「誰に祈っているか、それが祈りの内容を決める。」と言えるでしょう。

王の王によって、皆さんの毎日は“憐みの日”ですよね。

考えてみて下さい。

私たちには、いつでも何でも神様に求めることができる権利があるのではないですか？

ある大学で、聖書教師がこのようなたとえ話を語っているのを聞いたことがあります。

一人の人が祈ろうとしている時、それが私だと仮定して、神が天の軍勢を集めて、「ほら！ JD が祈ろうとしている。シーツ！ 静かに。皆、集まりなさい。」

「ミカエル、準備しなさい！ JD が祈ろうとしているから。」「御使いたち！ 準備はいいか？」

「JD が祈ろうとしている。彼が求めることは何でもするのです！ 準備はできたか？」「来るぞ！ 来るぞ！」そして私が、「主よ、この食事を感謝します。この食事と体を祝福して下さい。」

「えっ？ それだけ!? たったそれだけ!?」「インターンはどこだ？ 他で食前の祈りをしている所に行きなさい。ミカエル、ガブリエル、ご苦労だった。御使いたちよ、任務終了。戻って良い。」

「わたしは、JD がもっと大きなことを求めると思ったんだが。」

私たちはそういうことをしてきたのです。

面白いかもしれませんが、私は泣きたくありませんよ。

もっと求めていたら、どんなものを手に入れることができていたのか。

聖書は、私たちが神様に求めるものは何でも与えられるという約束で満ちています。

「何でも？」「♪主よ～、それならペンツを与えてくださーい♪」

これはしないで下さいよ。勿論、みこころならいいのですけど。

それが神様のみこころかどうかを判別するリトマス試験が二つあります。

よく聞いて下さい。

私たちの益となり、主の栄光となるならば、それは叶えられます。

それが私の益となり、主の栄光となるならば、答えられるのです！

しかし、私たちが願っている時ではなく、神の時に、神の方法で、神の栄光のために答えられる場合もあります。

権威あるみことばを通して私たちが握っている約束は、Iヨハネ5章14節-15節

14 何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるといふこと、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。(Iヨハネ5)

『これこそが確信』 私はこの言葉が大好きです。

皆さんはこのみことばによって、確信を持てるのです。

パウロは召命に言及して希望を話していますが(エペソ 1:18)、私たちが「本当に期待します」と言う時、その文脈からは、何か不確かな感じがします。

「そうなることを願っている。あの事を確かに期待している。」これはあやふや、曖昧、不確かな感じ。でも、ここで言う希望は違います。確かな希望です。疑いも例外もない希望。

私たちが持っている確信は信念ではありません。

希望の本質は、「本当に期待する」というようなことではない。

「これが私の希望です！ 希望があります！ 信頼しているんです！」

イエス・キリストに希望があり、彼を信頼するとは、一体どういうことでしょうか。

それは、信頼と保証された確信があるということなのです。

15 私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。(Iヨハネ5)

大きかろうと小さかろうと、何でもですよ！ これ、いいですね。

コストコの駐車場もそうです。

私は毎回、駐車のために祈っていて、神様はその都度応えて下さっています。

神様にとっては、大き過ぎるものも小さ過ぎるものもないのです。嬉しくないですか？

願うことは何でも神が聞いて下さると「期待している」のではなく「分かっている」

神に願い求めたことは、既に手にしていると分かっている。

なぜ？ それは神のみこころに叶ったことだから。

神のみこころであり、神の栄光となり、そしてあなたのためとなるなら、何でも与えられるのです。

与えられます。あなたは得ます。

だから祈るのです。

もう少し時間をかけたいと思います。

なぜなら、今日の学びの箇所で、パウロは気にかけているエペソの人々のために“力”を祈っています（エペソ 1:20）が、この力が私たちにも必要だからです。

それは、キリストを甦らせた非常にパワフルな力。

そして、キリストは神の右に着座しておられる。

その力を今、あなたも私も受けることができるのです。

私たちがすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか。（ローマ 8:32）

『すべてのもの』 私はこの言葉が好きです。

よく聞いてください。これはとても重要ですから。とても励まされますから。

これは、パウロが聖霊によってローマの教会に宛てて書いた手紙ですが、殆ど修辞疑問文（*形は疑問文だが質問ではなく、強い肯定を表現する）になっています。

神様はここでこう語っているのです。

「わたしはあなたをものすごく愛しているから、わたしのひとり子をあなたに与え、あなたのために彼を十字架につけ、あなたのために墓に葬り、復活させた。

あなたへの愛のゆえに、あなたのために、わたしはこれらのことを行ったが、その他のことはしないだろうか？」

（いや、我が息子さえ惜しまなかったのだから、あなたに出し惜しみするものは何一つない！）

実は、これは今日のトピックではないのですが。

みことばである神様に向かって、みことばを祈りましょう。

だからこそ、みことばを読むのです。

それは非常に大きな力になります。

私自身を前に出しているのではなく、それをするように、ただ皆さんを励ましたいのです。

大丈夫。失うものは何もありません。

30日は長すぎるので**3**日間、みことばだけを祈って、何が起こるか試してみてください。

3日もかからないと思いますが、とにかく何が起こるか見て下さい。

神様に求めるのです。毎日が憐みの日だから。

神に何でも求め、そして神がして下さることを見る。

神様は待っています。

でもどうか、先ほど私がやったような食事の祈りはしないで下さいね。

神様は、あなたが大きなことを求めるのを待っておられます。

神様は大きな神であり、あなたをとっても愛しているので、喜んでして下さるのです。

神を信じている私たちは、ラッパが吹かれると一瞬のうちに、本当にあっという間に、測定できない1/1000秒ほどの速さで、この朽ちていく古い体を脱ぎ捨てます。

待ちきれません。これこそが、私にとって唯一の大きな希望であり励ましです。

ラッパが鳴ると、たちまち、朽ちる体から朽ちない体に変えられ、空中に引き上げられて、主と共にいるのだ、と私たちは信じていますよね。

なのに、今月の支払いに関しては、神を信じることができない。

どうということでしょうか？

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。

それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ 3:16)

神様は「わたしはすべきことをやったから、後は自分でやりなさい。」と言うのでしょうか？

いいえ、神様は全てをして下さいます。

パウロが、「どうか、彼らが神を知ることができますように。」という祈りで始めた（エペソ 1:17）のは興味深いと思いませんか？

なぜなら、そのように神を知る時、信者たちを告発する者、敵、サタンがやって来て、あなたのことを神に向かって非難するからです。

ヨブの時もそうでしたね。

サタンが主に告発したのは、「ヨブは理由もなくあなたを礼拝するのでしょうか？ いいえ。

彼が礼拝するのは当然でしょう。だって、あなたは彼を信じられないほど祝福しているのですから。

私に、彼の人生をめちゃくちゃにさせて下さい。

そしたら、彼はきっと、面と向かってあなたを呪うに違いありません。」（ヨブ 1:9-11）

「それは、おまえの考えだ。」

神様は私をよくご存知です。

誰かに、特に親として子供に「分かるでしょ！」と言ったことがありますよね。

「そんなこと、言わなくても分かるでしょう！」「うん…分かる…」

神様をよく知るなら、問題はなくなるのです。

皆さんは、私が誰を知っているか知らないでしょう。私は彼をよく知っています。

「御子をさえ惜しまなかった神が、私に与えて下さらないものは何一つない」と。

マタイ 7 章 7 節-11 節を見ましょう。

7 求めなさい。そうすれば与えられます。(マタイ 7)

原文では、求め続けなさい。

誰かが「神に 2 度求めることは、信仰の欠如を表している」と言うのを聞いた時にうんざりします。

もう、本当に…それは、真実ではありません。

しつこいやもめと不正な裁判官のたとえはどうですか？（ルカ 18:1-5）

私たちの裁判官は正しいお方ですが。

ヤコブは、「自己義ではなく、キリストに在る義人の、熱心で粘り強い祈りは、働くと大きな力がある」

と言っています。（ヤコブ 5:16-18）

かなめは粘り強さ。

7 求め（続け）なさい。そうすれば与えられます。探し（続け）なさい。そうすれば見出します。

たたき（続け）なさい。そうすれば開かれます。

8 だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。（マタイ 7）

このたとえを聞いて下さい。たとえと言うより、まあ、たとえですが。

9 あなたがたのうちのだれが、自分の子がパンを求めているのに石を与えるでしょうか。

10 魚を求めているのに、蛇を与えるでしょうか。 冗談は止めてよ。

11 このように、あなたがたは悪い者ではあっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っているのです。それならなおのこと、天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えて下さらないことがあるでしょうか。（マタイ 7）

繰り返しますが、良いものであるなら、神様は与えて下さいます。

良いものでないなら、与えて欲しいとは思いません。

神様が祈りに応えて下さらなかったことを感謝していますか？

私は 30 年以上、祈りの日誌を書いています、読み返してみると「神様、こんなことを祈ってごめんなさい。」と書いてしまいます。

「おお！もし、神様がこの祈りを叶えて下さっていたら、どんなことになっていたんだろう…」

神様はとても良いお方です。

あたかも、「JD、これは祈りたくなかったら？ わたしが分かっているということを知っていたら、こんなこと祈ろうともしなかつたはずだよ。」とされているかのようです。

祈りのリストを見たら、「ごめんなさい。私はこれを求めていたけど、あなたはあんなに大きなことをしたいと願っておられた。なのに、私はこんな小さなことだけしか求めていなかったんだ…」

すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。（ヤコブ 1:17）

神様が何かを与えて下さった時に、「神様、これは完璧です！」と言ったことは何回ありますか？

「当たり前だよ。わたしは完璧な神だから。わたしは良い神だから。」

父には、移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはありません。（ヤコブ 1:17）

言い換えると、「神は絶対に心変わりすることがない」ということ。

あなたに何か与えたり、祈りに応えたりした後で、「ああ、与えるんじゃなかつた。あれは間違いだった。

取り返そう。」と言われると思いますか？

そんなことをされたら当惑してしまいます。

良いものであるなら与えられるのです。

しかし、必須条件が一つ。どうか、よく聞いて下さい。

あなたは求めなければなりません。「本当に？」そうです。

それも、求め続けるということが必要でしょう。「本当に？」はい。「なぜ？」

自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。（ヤコブ 4:2）

KJV では *yet ye have not, because ye ask not.* 「求めないから、持っていない。」
ブルックリン・タバナクル・チャーチのジム・シンバラ牧師が語ったこの言葉が好きです。
『彼は求めなかったので、持っていなかった』これが私たちの墓碑となることがないように。」
これはつまり、「求めないから持っていない。求めたから持っている。」ということですね。
願わなかったから持っていないということは、すなわち、願ったから与えられた。
「どうやって手に入れたの?」「求めたんです。」
この教会は美しくて、人々がたくさん集って、私たちは本当に祝福されています。奇跡ですよ。
1年間ここにいなかったエリック・アンダーソンとフランク・ケッセルが、「この教会がどれだけ美しい
か忘れていましたよ。」と話していました。
本当にそうです。精巧に造られた美しい教会、神の栄光となる教会です。
「どうやって建てたのですか?」「求めたんです。」
「求めただけ!? それだけ!?!」「そうです!」
神様は、皆さんのあり得ないような祈りに応えて下さいました。
神様にふさわしい祈りとは、誰に向かって、何を求めるのか、なのです。

祈りましょう。
天のお父様。あなたへの祈りによって、私たちに与えられている力に感謝します。
私を含め、今日ここにいる全員が、あなたの恵みの御座に大胆に近づき、何でも求めることができますよ
うに。
イエス様の御名によってお祈りします。アーメン

.....

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4:7
メッセージ by JD Farag 牧師
カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>
Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi